

令和3年度文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】」

公益社団法人日本語教育学会

「日本語教育学会の人材, 知財, ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プ

ログラム(略称: JCN 研修)中堅研修コース/講師養成コース」

募集要項

I. 研修について

1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、令和3(2021)年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修(以下、中堅研修コース)、及び研修担当講師の育成研修(以下、講師育成コース)を実施いたします。

「中堅研修コース」では、文化庁(2019)『[日本語教育人材の養成・研修の在り方について\(改訂版\)](#)』の日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」に関連した内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

「講師育成コース」では、文化庁(2019)の日本語教育人材の養成・研修における「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」に関連した内容を提供します。その目的は、中堅日本語教師の研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材を育成することです。

これら2つのコースは、日本語教育学会の様々な人材(Jinzai)、知財(Chizai)、ネットワーク(Network)を活用してオンラインで実施します。

2. 研修実施期間

令和3(2021)年10月1日(金)～令和4(2022)年2月28日(月)

3. 実施方法

以下は、【中堅研修コース】【講師育成コース】それぞれの募集要項をご覧ください。

<問合せ先>

公益社団法人日本語教育学会 JCN研修事務局(平日9～18時のみ)

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F

Tel: 03-3262-4291 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp

【中堅研修コース】

3. 実施方法

3.1. 遠隔による研修の実施

本研修は、4つの班に分かれ、オンラインで実施します。「同期型研修（Web会議システムによるスクーリング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴とLMSの利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。Web会議システムにはZoomを用います。LMS（Learning Management System：学習管理システム）にはSlackを用います。

3.2. 研修の特徴

(1) 研修テーマ：「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」

研修生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理し、検討します。

- (1) 日本の在留外国人施策・制度
- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験
- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トレランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラム及び教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおけるICTの活用・著作権
- (13) マネージメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力
- (17) その他

(2) チームで研修活動を行う

本研修では、他者とのつながりと協働を重視します。そのために、研修生は応募時に提出した自らの課題を1人で考えるとともに、課題に基づいていくつかのチームに分かれ、チームとしても研修活動を行います。一人で考え、解決するのではなく、組織や専門分野を超えた様々なリソースを活用し、つながることの重要性とダイナミズムを経験します。

(3) 各自の課題を自ら設定し、自ら解決する

各自の課題や解決方法を誰かに教えてもらうのではなく、自ら課題を設定し、チームで解決にあたります。そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組みます。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指します。

(4)日本語教育学会のリソースを活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有します。

(5)6期にわけて実施

10月から2月までの約5ヶ月の研修期間を、6期に区分して実施します。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれにZoomによるスクリーニングが行われます。さらに、研修全体を通してSlackを利用した課題の遂行と意見交換が並行して行われます。その他、2月までに修了レポートの提出が求められます。

(6)Slackを利用した非同期型研修

全研修期間を通じて、Slackを利用して、チームごと、あるいは、チーム間（班）での意見交換、情報収集、成果報告などを行います。チームにはそれぞれ研修担当の講師とメンターが付き添い、伴走します。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行います。研修担当者もリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。

具体的には、講義と演習の合間に次のことを行います。

- ① 各種課題の提出
- ② チームによる進捗状況報告
- ③ 課題解決方法の検討と決定
- ④ 改善案の検討
- ⑤ 成果発表会に関する協力・連絡
- ⑥ その他、個別のネットワーキング

(7)提出物

すべての研修生は、研修期間を通じて次の4種類の成果物を提出しなければなりません。

- ① 「振り返りシート」（スクリーニング終了ごとに、個人で提出）
- ② 「研修成果のまとめ」（「成果発表会」終了後に、チームで提出）
- ③ 「修了レポート」（研修終了時に、個人で提出）
- ④ 「自己評価票」（研修期間中3回程度、個人で提出）

4. 実施内容とスケジュール（40単位：講義20単位+演習20単位、1単位=45分）

1)オリエンテーション

ガイダンス動画の事前視聴と Zoom による事前説明会で構成します。

2) 講義・演習

各期は原則として講義と演習の組み合わせで構成します。

① 講義 (4 単位) : 講義動画の視聴 (1 単位) + 課題の遂行 (1 単位) + スクーリング (2 単位)

② 演習 (4 単位) : 課題の遂行 (1 単位) + スクーリング (2 単位) + 課題の遂行 (1 単位)

- ・ 講義の非同期型研修では、動画教材による講義 (各自視聴) を行います。(1 単位)
- ・ 講義後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。(1 単位)
- ・ 課題提出後、Zoom によるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行います。(2 単位)
(1 回目の講義のスクーリングは、全体 (2 単位) + 班 (1 単位) で構成します。)
- ・ 演習では、スクーリングの前に担当講師が指定する事前課題を遂行します。(1 単位)
- ・ 事前課題後、Zoom によるスクーリングで、複数のチーム間 (班) で共有や議論などを行い、自身の研修課題の解決を図ります。(2 単位)
- ・ スクーリング後、議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行します。(1 単位)
(最後の成果発表会 (4 単位) も演習のスクーリングの一部となります。)

< 中堅研修コースのスケジュール(めやす) >

各期	1 期 (4 単位)	2 期 (8 単位)	3 期 (8 単位)	4 期 (8 単位)	5 期 (8 単位)	6 期 (4 単位)
時期	10 月前半	10 月後半	11 月	12 月	1 月	1 月末~2 月
内容	講義・演習1	講義・演習2	講義・演習3	講義・演習4	講義・演習5	成果発表会
提出物	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート	研修成果まとめ 修了レポート 自己評価票

3) スクーリングの日程・提出物

基本的にスクーリングのすべてに参加することが求められます。

日程	スクーリング	内容
10 月 2 日(土) 16:00-17:30	事前質問会(任意参加)	
10 月 3 日(日) 13:15-15:45	スクーリング1	・ 講義に関する意見交換 ・ 各自の課題に関する意見交換
10 月 16 日(土) 13:00-16:30	スクーリング2	・ 講義に関する意見交換 ・ 各自の課題に関する意見交換

11月13日(土) 13:00-16:30	スクーリング3	・講義に関する意見交換 ・各自の課題に関する意見交換
12月5日(日) 13:00-16:30	スクーリング4	・講義に関する意見交換 ・各自の課題に関する意見交換
1月8日(土) 13:00-16:30	スクーリング5	・講義に関する意見交換 ・各自の課題に関する意見交換
1月29日(土) 13:00-16:30	成果発表会	・各チームの課題達成状況の報告
※提出物(期限) 【振り返りシート(スクーリング終了ごとに提出)】 (①10/10, ②10/24, ③11/21, ④12/12, ⑤1/16) 【研修成果まとめ(チームでの取り組み内容をチームごとに提出)】(2/13) 【修了レポート(研修での学びを各自まとめて提出)】(2/20) 【自己評価票】(研修の開始時・中間・終了時)		

4) 動画教材の研修内容

	科目	内容(項目)	動画本数
事前	研修について(1)~(2)	① コースガイダンス ② 研究倫理と著作権	2
講義1	日本語教育人材の育成/日本語教育における中堅(1)~(3)	① 日本語教育人材について ② 日本語教育人材の育成 ③ 日本語教育における「中堅」	3
講義2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	日本語教師と「熟達」	3
講義3	「実践を記述する」ということ(1)~(3)	① 「実践」を観察する ② 「実践」を記述する ③ 「実践」を評価する	3
講義4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	課題を解決する	3
講義5	「実践」を振り返る/異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	3

5) 担当講師

<講義担当講師(動画教材)>

石黒広昭(立教大学), 小林ミナ(早稲田大学), 西原鈴子(特定非営利活動法人日本語教育研究所), 横溝紳一郎(西南学院大学)

<中堅研修コース担当>

小河原義朗(東北大学), 御館久里恵(鳥取大学), 金子史朗(株式会社友乃家), 衣川隆生(日本女子大学), 金孝卿(麗澤大学), 久保田美子(早稲田大学), 黒崎誠(ラゴ日本語教育研修所), 小林ミナ(早稲田大学), 中島祥子(鹿児島大学), 永田良太(広島大学), 松崎寛(筑波大学), 柳田直美(一橋大学), 義永美央子(大阪大学)

II. 受講者の募集について

1. 募集人数

80 名程度

2. 応募資格と応募条件

(1) 応募資格

中堅日本語教師として十分な経験を有する者（目安として3年以上の日本語教育歴がある者）。

(2) 応募条件

次の4つをすべて満たすこと。

① Zoom によるスクーリングに出席できること。

基本的にガイダンス動画の事前視聴および6回のスクーリング（発表会を含む）の全てに参加すること。

② 全研修期間を通じて、Slack による意見交換、情報収集、成果報告などを頻繁に行う。Slack でのやりとりに積極的に参加し、意見交換などを行うこと。

③ 同期型研修で使用する Zoom と非同期型研修で使用する Slack の利用環境を整えられること。（Slack については、基本的なマニュアルを配布予定）

④ 母語、国籍は問わないが、日本語でのグループ活動、ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。

3. 修了証

80%以上の出席率、80%以上の課題達成率の両方を満たした各研修生に修了証を授与します。

4. 応募書類

(1) 参加申込書

所定の用紙に必要事項を記入のこと

(2) 事前課題

指定された課題について、1,000字程度でまとめること

5. 応募方法

下記の URL から応募書類をダウンロードし、メール添付にて提出してください。

http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/08/2021_jcn_application.docx

<応募書類提出先>

公益社団法人日本語教育学会 JCN研修事務局 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp

応募締切：2021年8月31日（火）23:59（JST）

6. 選考

提出された書類を審査し、2021年9月21日（火）までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

7. 受講料

受講料は、一人10,000円（教材費を含む）です。遠隔による研修において、受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。

8. 注意事項

本研修は、文化庁委託（日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】）を日本語教育学会が受託事業として実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、LMSでのやりとりなどが、他の研修生、講師、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明し、意向を伺います。なお、記録のため、同期型研修の当日の様子を録画します。

【講師育成コース】

3. 実施方法

3.1. 遠隔による研修の実施

本研修は、4つの班に分かれ、オンラインで実施します。「同期型研修（Web会議システムによるスクーリング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴とLMSの利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。Web会議システムにはZoomを用います。LMS（Learning Management System：学習管理システム）にはSlackを用います。

3.2. 実施方法

受講者は、担当講師の指導を受けつつ、本研修と同時並行で行われる【中堅研修コース】（【中堅研修コース】募集要項を必ず参照のこと）の全てにメンターとして主体的に参加することにより（謝金対象）、日本語教師【中堅】に対する研修の企画・立案・実施に必要な知識とスキルを実地で身につけます。

(1) 講義動画の視聴を通して、文化庁（2019）の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」、
「日本語教師【中堅】研修における教育内容」の具体について理解を深めます。

(2) 【中堅研修コース】の「同期型／非同期型研修」に参加することにより、活動のタイプを知るとともに、研修プログラムのデザインや進め方などについて学びます。

(3) 「非同期型研修」に提出される課題へのフィードバックや「同期型研修」にメンターとして参加することにより、現職教師に対するフィードバックの方法や、対話による省察の促し方について学びます。

(4) 【中堅研修コース】における「講義」と「演習」の往還に接することにより、理論と実践のインターフェイスについて学びます。

(5) 本研修は、【中堅研修コース】に合わせて10月から2月までの約5ヶ月の研修期間を、6期に区分して実施します。【中堅研修コース】では、「講義」と「演習」、そしてLMS（Slack）を用いた「非同期型研修」としてチームごと、あるいは、チーム間での意見交換、情報収集、成果報告などを行います。このチームにメンターとして付き添い、伴走します。そして、各スクーリング間に、いくつかのチームをまとめた班ごとにメンターセッションを行います。メンターセッションでは、ZoomまたはSlackで次のことを検討します。

- ① スクーリングのファシリテーション
- ② 【中堅研修コース】受講者の課題とフィードバック
- ③ 【中堅研修コース】のメンターとしての振り返り
- ④ 中堅研修の企画、運営

メンターセッションの実施スケジュールは、各班で講師と受講者とが相談して決定します。

(6) 提出物

すべての研修生は、研修期間を通じて次の3種類の成果物を提出しなければなりません。

- ①「振り返りシート」(第1～6期のメンターセッション終了ごとに、個人で提出)
- ②「修了レポート」(研修終了時に、個人で提出)
- ③自己評価票(研修期間中3回程度、個人で提出)

4. 実施内容とスケジュール(23単位：講義5単位+MS18単位、1単位=45分)

1) 講義(5単位)

オンデマンド学習として、【中堅研修コース】と同じ動画教材による講義(視聴)を行います。

2) メンターセッション(MS)(18単位)

【中堅研修コース】にメンターとして参加します。

① オリエンテーション・全体振り返りセッション(4単位)

研修開始時に【講師育成コース】受講者全体でオンライン同時双方向のオリエンテーション(2単位)、終了時に全体振り返りセッション(2単位)を実施します。

② メンターセッション(MS)(14単位)

各班において、【中堅研修コース】のスクーリング前後に担当講師と中堅研修の企画・運営に関する演習(14単位)を行います。

<講師育成コースのスケジュール(めやす)>

各期	1期	2期	3期	4期	5期	6期
時期	10月前半	10月後半	11月	12月	1月	1月末～2月
内容	オリエンテーション・講義・演習1参加, MS①②	講義・演習2参加, MS③	講義・演習3参加, MS④	講義・演習4参加, MS⑤	講義・演習5, MS⑥	成果発表会参加, MS⑦, 全体振り返りセッション
提出物	振り返りシート, 自己評価票	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート, 自己評価票	振り返りシート	修了レポート, 自己評価票

3) スクーリング等の日程・提出物

基本的に以下のすべてに参加することが求められます。網掛けは【講師育成コース】のみ。

日程	スクーリング等
10月2日(土)13:00-14:30	全体オリエンテーション(2単位)
14:30-16:00	MS①(2単位)
10月3日(日)13:15-15:45	スクーリング1
未定	MS②(2単位)

10月16日(土)13:00-16:30	スクーリング2
未定	MS③(2単位)
11月13日(土)13:00-16:30	スクーリング3
未定	MS④(2単位)
12月5日(日)13:00-16:30	スクーリング4
未定	MS⑤(2単位)
1月8日(土)13:00-16:30	スクーリング5
未定	MS⑥(2単位)
1月29日(土)13:00-16:30	成果発表会
1月30日(日)13:00-14:30	全体振り返りセッション(2単位)
14:30-16:00	MS⑦(2単位)
※提出物(期限) 【振り返りシート(各期のMS終了ごとに提出)】 (①10/10, ②10/24, ③11/21, ④12/12, ⑤1/16, ⑥2/7) 【修了レポート】(2/20) 【自己評価票】(研修の開始時・中間・終了時)	

4) 動画教材の研修内容

	科目	内容(項目)	動画本数
事前	研修について(1)~(2)	①コースガイダンス ②研究倫理と著作権	2
講義1	日本語教育人材の育成/日本語教育における中堅(1)~(3)	①日本語教育人材について ②日本語教育人材の育成 ③日本語教育における「中堅」	3
講義2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	日本語教師と「熟達」	3
講義3	「実践を記述する」ということ(1)~(3)	①「実践」を観察する ②「実践」を記述する ③「実践」を評価する	3
講義4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	課題を解決する	3
講義5	「実践」を振り返る/異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	3

5) 担当講師

<講義担当講師(動画教材)>

石黒広昭(立教大学), 小林ミナ(早稲田大学), 西原鈴子(特定非営利活動法人日本語教育研究所), 横溝紳一郎(西南学院大学)

<講師育成コース担当> (中級研修コースと同じ)

小河原義朗(東北大学), 御館久里恵(鳥取大学), 金子史朗(株式会社友乃家), 衣川隆生(日本女子大学), 金孝卿(麗澤大学), 久保田美子(早稲田大学), 黒崎誠(ラボ日本語教育研修所), 小林ミナ(早稲田大学), 中島祥子(鹿児島大学), 永田良太(広島大学), 松崎寛(筑波大学), 柳田直美(一橋大学), 義永美央子(大阪大学)

II. 受講者の募集について

1. 募集人数

20 名程度

2. 応募資格と応募条件

(1) 応募資格

- ・文化庁(2019) 『[日本語教育人材の養成・研修の在り方について \(改訂版\)](#)』, p.31 「表 8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての専門性と経験を有する者。
- ・現在, または将来的に中堅日本語教師研修の講師等を務める可能性があり, 日本語教育に貢献する意欲がある者。
- ・過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。

※応募資格に関してご不明な点がある場合には<問合先>にお問い合わせください。

(2) 応募条件

次の4つをすべて満たすこと。

- ① Zoom によるスクーリングに出席できること。
講師育成コース受講者は, 基本的に【中堅研修コース】とメンターセッションの全てに参加すること。
- ② 全研修期間を通じて, Slack による意見交換, 情報収集, 成果報告などを頻繁に行う。Slack でのやりとり積極的に参加し, 意見交換などを行うこと。
- ③ 同期型研修で使用する Zoom と非同期型研修で使用する Slack の利用環境を整えられること (Slack については, 基本的なマニュアルを配布予定)。
- ④ 母語, 国籍は問わないが, 日本語でのグループ活動, ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。

3. 修了証

80%以上の出席率，80%以上の課題達成率の両方を満たした各研修生に修了証を授与します。

4. 応募書類

(1)参加申込書

所定の用紙に必要事項を記入のこと

(2)事前課題

指定された課題について，1,200字程度でまとめること

5. 応募方法

下記の URL から応募書類をダウンロードし，メール添付にて提出してください。

http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/08/2021_jcnkoshi_application.docx

<応募書類提出先>

公益社団法人日本語教育学会 JCN研修事務局 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp

応募締切：2021年8月31日（火）23:59（JST）

6. 選考

提出された書類を審査し，2021年9月21日（火）までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

7. 受講料

受講料は，一人10,000円（教材費を含む）です。遠隔による研修において，受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。

8. 注意事項

本研修は，文化庁委託（日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】）を日本語教育学会が受託事業として実施するものです。研修期間に作成した資料，成果物，LMSでのやりとりなどが，他の研修生，講師，日本語教育学会が行う研修評価，研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明し，意向を伺います。なお，記録のため，同期型研修の当日の様子を録画します。

以上